

小児領域の内視鏡手術審査基準

総論

コメント

I 総合評価：手術の進行			全体の手術の流れを見て総合的に判断する。
	手術の進行が計画的かつ円滑である	6点	手術全体の安全性ならびに術者の理念も評価する。
	手術の計画性、円滑さに改善すべき点があり、手術時間が延長している	3点	
	手術進行が、計画的かつ円滑とはいえない	0点	
II 総合評価：助手との連携			全体の手術の流れを見て総合的に判断する。術野の展開と大きく関わるが、総合的に判断する。Working portが2本の場合この項目は評価しない。
	助手との連携が良好で、手術が順調に進行する	6点	
	助手との連携が時に不十分となり、修正を要する	3点	
	助手との連携が悪く、手術時間の延長や出血が認められる	0点	
III-1 術野の展開：器具の干渉			ポートの配置と重なるが、干渉にのみ特化して判断する。
	スコープ・器具が干渉せず術野が展開でき、手術操作に支障がない	4点	
	スコープ・器具に時に干渉があり、手術操作に支障をきたしている	2点	干渉回数に関する「時に」の目安としては5回前後であれば2点とする。
	スコープ・器具の干渉がひどく、手術が進行しない	0点	
III-2 術野の展開：モニター中央での手術			
	術野がほぼ視野の中心に良好に捉えられている	4点	
	時に手術手技が視野の中心以外にある術野で行われている	2点	「時に」の目安として、5回前後までは2点とする。手術に支障がない場合は減点しない。
	スコープ視野が操作部位から外れる、または視野の中心以外で行われる機会が多い	0点	
III-3 術野の展開：術野の汚れと安定性			体腔の小さな小児ならではの評価である。
	スコープが汚れず、術野の天地も安定している、あるいは直ちに対応できている	4点	
	スコープの汚れ、術野の天地のずれなどのために時に術野の視認が不良となっているが、迅速に対応していない	2点	「時に」の目安として、5回前後までは2点とする。
	スコープの汚れ、天地のずれなどのため安全な手術野が確保できていない	0点	
III-4 術野の展開：スコープの操作			
	手術操作にあわせて適切なスコープ操作が行われている	4点	「時に」の目安として、5回前後までの不具合は2点とする。鉗子の出し入れに不具合がない時はズームアウトについては評価しない。
	時に不適切なスコープ操作が見受けられる	2点	
	スコープ操作が不適切である	0点	

[脾臓摘出術]

III-5 術野の展開：助手の器具の使用法			
	術野展開のための鉗子（レトラクター、助手鉗子）の使用が良好である	4点	スネークレトラクターのブラインドの開閉操作はこの項目で減点対象とする。また面の向きも原則に従う。小さな患児に対する大きなリトラクターは減点する。Working portが2本の場合この項目は評価しない。「有意」とは修復・止血などを要することを意味する。不適切な体位による術野展開不良はこの項目で減点する。
	術野展開のための鉗子の使用法に改善すべき点がある	2点	
	術野展開のための鉗子使用法が適切でない	1点	
	組織損傷のために有意な出血をきたしている	0点	

IV 術者の器具の使用法			
	鉗子選択が適切であり、またその使用法も適切である	4点	先端の細い鉗子による臓器損傷のおそれのある把持などを含む。
	鉗子選択または使用法の改善により、手術時間の短縮が可能である	2点	
	非優位側の鉗子の選択・使用法に改善の余地がある	2点	
	不適切な鉗子選択または使用法により、出血や周囲臓器の損傷が認められる	0点	

V エネルギー源の選択と使用法			
	エネルギー源の選択、使用法とも適切である	4点	「時に」の目安として、5回前後までは2点とする。一度のcavitationは1点減点する。危険な操作であるが、結果的に問題がない場合は2点とする。
	エネルギー源の選択、または使用法が時に不適切である	2点	
	エネルギー源の選択または使用法の誤りに起因する出血、周囲臓器の損傷が認められる	0点	

LCSの使用法は安全でなければ（メーカーの指針などに準ずる）この項目で減点する。

VI 手術手技（出血）			
	血管の同定、剥離、切離が適切である（術中に不用意な出血がない）	4点	
	血管を同定することが困難で出血をきたしているが、適切な止血操作で迅速に出血がコントロールされている	3点	
	血管の同定、剥離、止血操作、切離に起因する手術時間の延長が認められる	1点	
	血管の同定、剥離、止血操作、切離操作に明らかな改善点が指摘できる	0点	
	ブラインド焼灼、ブラインドクリッピング	落第	

総論合計点数 44点

各論

I ポート挿入・抜去			
	ポートの選択、留置位置、留置方法、抜去法とも適切で安全である	6点	
	ポートの選択、留置位置、留置方法、抜去法に改善すべき点があるが適切に処理されている	3点	
	ポートの選択、留置位置または留置方法に起因する出血で手術時間の延長がある	0点	
	ポートの選択、留置位置または留置方法の誤りにより修復を要する臓器損傷をきたしている	落第	

[脾臓摘出術]

II 結腸脾間膜の処理		
	脾下極に沿って安全かつ適切に切離が行われている	4点
	切離の方向・位置は必ずしも適切ではないが、安全に処理が行われている	2点
	非全層性の結腸損傷がある	0点
	全層性の結腸損傷がある	落第

III 胃脾間膜の処理		
	脾に沿って安全かつ適切に切離が行われている	4点
	切離の方向・位置は必ずしも適切ではないが、安全に処理が行われている	2点
	非全層性の胃損傷がある	0点
	全層性の胃損傷がある	落第

IV 脾の剥離と授動（後腹膜・横隔膜からの剥離）		
	後腹膜・横隔膜からの脾の剥離と授動が、安全かつ適切に行われている	8点
	後腹膜・横隔膜からの脾の剥離・授動の円滑さに改善すべき点がある	6点
	後腹膜・横隔膜からの脾の剥離と授動が不適切である	4点
	修復を要する横隔膜損傷がある	0点
	後腹膜臓器（腎・副腎など）の損傷がある	落第

脾の剥離層・授動した脾の適切な取り扱いはこの項目で評価される

V 脾門部の処理（方法は問わない）		
1) 安全な血管の処理		
	脾門部の血管の処理が、安全かつ適切に行われている	8点
	出血は見られたものの、適切に止血された	6点
	出血は見られないが、安全性に欠ける	4点
	出血が見られ、止血に難渋した	0点

ステイプラーの選択、方向、先端の確認、回数などはこの項目で評価する

2) 脾尾部の確認		
	脾尾部の確認操作を適切に行っている	4点
	脾尾部の確認操作が不十分である	2点
	脾尾部の確認を行っていない	0点

個々の操作に際しての脾尾部の確認はこの項目で評価する

[脾臓摘出術]

VI 脾の収納		
	腹腔内での脾臓の取り回しが愛護的で、袋への収納も滞りない	6点
	腹腔内での脾臓の取り回しに無理があり、袋への収納にも滞りがある	3点
	腹腔内での脾臓の収納の際に、他臓器の損傷がある（修復不要）	0点
	腹腔内での脾臓の収納の際に、他臓器の損傷がある（修復必要）	落第

脾の収納時の被膜・実質損傷はこの項目で評価する

VII 脾に対する愛護的操作		
	被膜の損傷はない	8点
	被膜の損傷はないが、非愛護的操作がみられる	6点
	1～2か所の被膜損傷があり出血を認める	4点
	多数の被膜損傷がある	0点
	脾臓の実質損傷	落第

他臓器に対する非愛護的操作もこの項目で減点する

各論合計点数

48点

エネルギーデバイスの使用法に関しては、各論の各項目でも減点する

単孔式 Reduced Port Surgeryの場合も本審査基準に則って審査する

X 縫合と結紮		
	縫合・結紮が術者の意図するとおり、正確かつ迅速に行われている	8点
	針のマウント、運針、縫合の深さなど明らかな改善点が指摘できる、あるいは結紮に不備がある	4点
	縫合・結紮時における軽度の臓器損傷	2点
	縫合・結紮技術が不十分である	0点
	縫合・結紮時における修復を要する臓器損傷	落第

体内結紮を行っている場合には、その技術の評価を行うが、体外結紮のみでも可とする。

針を持った持針器の術野外への脱出は減点する。

8点